

農地を守れ！イチジク栽培大作戦 ～遊休農地化を防ぐために～

県中農林事務所農業振興普及部

1 背景・ねらい

<背景>

○全国的な葉たばこ廃作募集を受け、郡山市では令和3年に大規模に葉たばこを廃作することとなった。

22.1ha、34名(R3)⇒11.2ha、13名(R4)

○廃作後の農地の遊休化が懸念されたものの、担い手の減少・高齢化が進む中、労力負担が大きい作物を導入することは困難であった。

<ねらい>

○農地の管理を継続させたい

⇒永年性作物の導入はどうか？

○売れるものを作りたい

⇒市場・直売所で需要がある作物

○手間は減らして栽培したい

⇒省力的な品目・品種・栽培方法

(防除回数が少なく、管理しやすい品目)

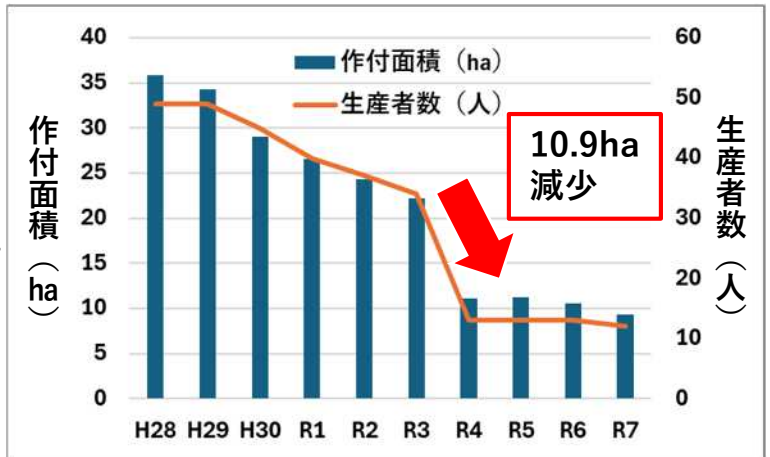


図1 郡山市の葉たばこ作付面積と生産者数の推移

**葉たばこ耕作地が遊休農地と
ならないよう、早期に「イチジク」
の作付を推進しよう！**

2 活動内容

(1) 導入品目の検討(R3)

関係機関と連携し、葉たばこ生産者の意向把握と推進品目の検討を重ね、イチジクを採用。

(2) イチジク推進と導入支援(R3～4)

○耐寒性がある加工用の品種導入を提案

⇒寒冷地でも安定生産ができ、生食用より栽培管理しやすい。

○葉たばこ廃作となる前年から技術指導開始

⇒令和3年度末には作付指導会を実施。

(3) いちじく生産部会の設立(R4)

○導入者数が徐々に増加し、令和5年2月にJA福島さくら郡山地区いちじく生産部会が設立

⇒JA、市等の関係機関と連携した支援体制を構築。

(4) いちじく生産部会への技術支援(R5～7)

○研修会や栽培指導会の定期開催の体制整備

⇒効果的な集団指導を可能に(3地区、年5回)。

○個別巡回等による栽培指導

⇒開園から成園化まで、年数に応じた栽培管理の支援。

○年間の作業スケジュールをまとめた栽培暦の作成・配布

⇒作業の見通しを立てて適期管理を支援。

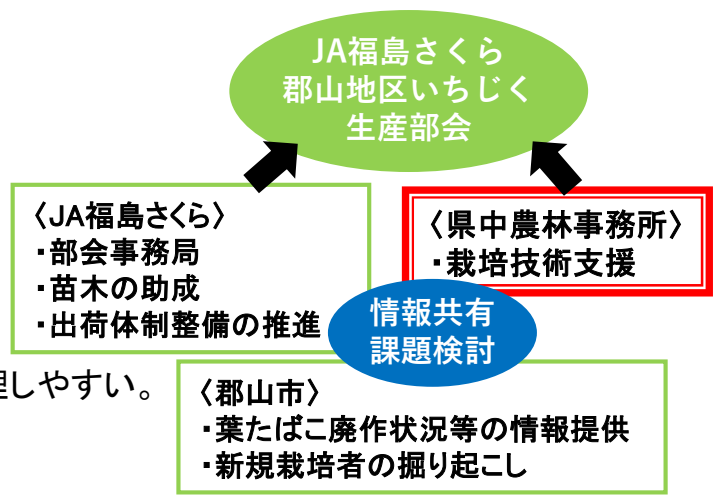


図2 イチジク生産の支援体制



図3 イチジク栽培指導会

3 活動の成果

(1) 生産者、作付面積の増加

- 生産者・作付面積ともに年々増加。
- 令和7年の作付面積は10haで葉たばこ廃作面積とほぼ同等、生産者数は45人で葉たばこ廃作者数以上に。
- 葉たばこ廃作者、廃作地以外にも拡大。

(2) 販売額の増加

- 令和6年から本格的な市場出荷を開始。
- 令和7年の販売実績(共販)は出荷量4,949kg、販売金額2,674千円に増加。

(3) 継続意欲の醸成

- 多くの生産者がイチジク転換へのメリットを実感。
- 増反する生産者も見られている。



図4 成園化したイチジク園

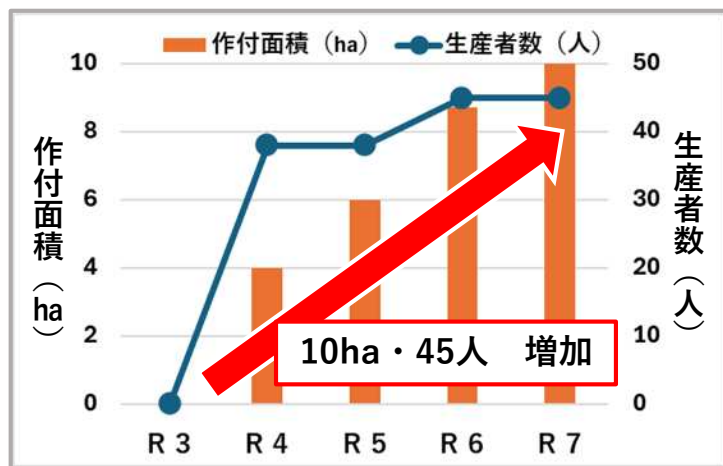


図5 イチジク生産者数と作付面積の推移

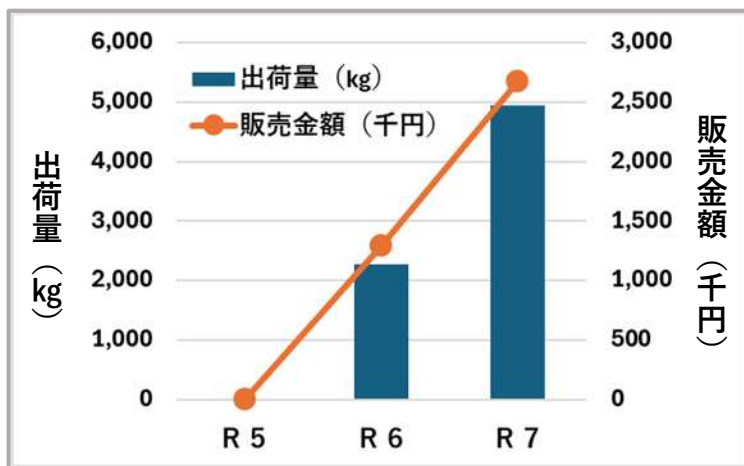


図6 JA福島さくら郡山地区いちじく生産部会の出荷量と販売金額の推移(系統出荷のみ)

4 今後の課題・方向性

(1) 今後の課題

- JAIいちじく生産部会の果実は、市場・直売所から好評で需要も高く、増産を求められている。
- 園地の生産力増加に伴い、品質の良い果実生産のための適期管理の重要性が高まっている。
⇒今後、より一層の収量・品質向上に向けて、支援する必要がある。

(2) 活動の方向性

- 多くの生産者が葉たばこ等の他品目から転換したこと等から、栽培初心者が多い。
- 基本的な栽培管理や収穫適期について、より一層の理解を深める必要がある。
- 栽培面積の増加、果実の生産量増加等により、病虫害被害の発生リスクは高まると予想される。



定期的な栽培指導会による生産者の栽培技術向上
個別巡回による園地の状況に合わせたきめ細やかな支援

**産地の発展を
目指す！**